

緑のまきば

No.42

2009年6月14日

小金井緑町教会

小金井市緑町四一六一三三

☎042-3381-7961

牧師 山畑 謙

説教

『祈り倒す』

山畑 謙

「怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。
希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」
(ローマ12・11〜12)

右の二〇〇九年度の聖句の中で、
ここでは最後の「たゆまず祈りなさい」
に心を留めましょう。

「祈り倒す」などと言うのは、あまりに乱暴な言い方に聞こえるかも知れません。しかし、イエス・キリストへの全幅の信頼の故に、「祈り倒す」としか言いようのないことが起こるのです。

主イエス・キリストは、「はつきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かつて、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなた

がたにできないことは何もない。」とお教えになりました。これは不可能を可能とする信仰の力を教えていると言えます。そしてその信仰の力は、具体的には「祈り」において発揮されます。

ある教会での話です。大きな給水塔が教会の目の前にあって、とても邪魔になっていました。その管理者に移動を求めて交渉しても、よい返事は返ってきません。しかし、ひたすら何年も祈り続けたそうです。ある時、この給水塔は教会の前から離れた場所へと移されることになったそ

うです。

その教会は、駅目の前にあって、たいへん立地条件に恵まれています。しかし、それも最初からではなかったとのこと。最初は、駅と駅の間地点でした。しかし、教会に集う方々を覚え、ひたすら何年も祈り続けたそうです。ある時、駅が教会の目の前に移されて来たというのです。

祈った者にとつて、それは偶然そうなたたひとはなく、神が祈りに応えてくださったことでありました。意地悪く、単なる解釈の違いだと言えはそうも言えるでしょう。しかし、これは祈り倒したのです。巨人兵士ゴリアテを少年ダビデが倒したように、祈りに応えて神ご自身が働かれて、山をも動かす事態が現実のものとなったのです。

からし種一粒ほどの信仰とは、十字架と復活の出来事があつて、初めてよく分かるものでしょう。からし種一粒ほどの信仰、それは「このわたしは、キリストのものだ!」という信仰です。ハイデルベルク信仰問答の第一問「生きるにも死ぬにも、あなたただ一つの慰めはなんですか」の答えにあるとおりです。すなわち「わたしはわたし自身のもではなく、わたくしは、生きるにも死ぬにも、わた

しの真実な救い主イエス・キリストのものであることです。」

山が動くというのは、実は、私たちがキリストのものとされるといふ事において、すでに起こっているのです。私たち自身のゆるしは、一万タラントンの譬え(マタイ18章)にあるように、本来全く不可能なものでした。しかし、主の十字架によってそれが成ったのですから、山が動かされたのです。キリストのものとされると、すなわち赦され、救われ、召された事が、すでに山が動かされた事でした。その故に私たちも信じて祈るのです。

自分の力(祈りという努力)でムツカシイ相手(事柄)を思うようにするのはありません。自分の力で何とかしようとする、やがて疲れ、途絶えていきます。しかし、キリストのものとされてしまつて以上、祈りを実現するのも、そのお方であるのですから、そこにはや変な気負いや焦りは必要なくなつてしまひます。自分を召した神が働かれることを信じて、祈るのです。「たゆまず」とは、「その時」がくるのを待ちつつ、決して祈りをやめないということ。すなわち、祈ろうではありませんか。具体的な大きな夢をもって祈ろうではありませんか。